

		回 答
1	<p>日程令和4年10月27日（木）第1回臨時会が開催され、傍聴いたしましたので、感想を記述いたします。</p> <p>（支援金拡充・補正予算案などが可決）</p> <p>1. 議案の内容は国が市に追加配分した国庫補助金を活用した価格高騰緊急支援給付金 800,000 千円と新型コロナウイルス対策原油価格・物価高騰対応支援金 302,600 千円についての支援金拡充補正予算の承認を求めるものが中心で、質疑・答弁後、可決されました。</p> <p>最近の諸物価高騰の中、緩和措置としての支援金は適切かつタイムリーであり、困窮する人達にとって、恵みの資金になりましょう。</p> <p>ただ、この支援策は誰が考えても、ばらまきにほかならず、根本的な解決策に、ほど遠いものに思えてなりません。</p> <p>国の財政危機が水面下で進行する状況のもと、先行きが、気がかりでなりません。</p> <p>（業務DX化は人の意識改革が重要）</p> <p>2. 桐生タイムス紙に投稿される意見書の中で、高齢者にとって「住みづらくなった街桐生」「インターネット、スマートフォンなしでは生活しづらくなった」となげく市民の声が聞かれます。私も高齢者ですが、今大切なことは、時流にとり残されないために、自らを変える勇気が必要だと考えます。</p> <p>今回「桐ペイ」chiica アプリインストールに挑戦し登録と 6000 ポイントをゲットしました。その際、DX推進室の職員による電話対応がていねいで、わかりやすく、説明が明確であり、背中を押してもらった結果となりました。皆様にお礼を申し上げます。</p> <p>桐生にとって、業務のDX化は必ずやり遂げなければならない最大のテーマだと考えます。できない理由をみつけるのは簡単で「自治体業務はデジタル化に向いていない」とか「高齢者でコンピュータがあまりわからない人はどうする」「スマートフォンを所有していない人に対することは」とか言い出すとDX化は進まない。</p> <p>すでに足利市においては最高情報統括責任者（副市長が担う）を専門的知見から補佐するITエンジニア（米国ウエストチエスター大学コンピューターサイエンス卒 20年実務経験者）を委嘱し、4つの窓口（行かなくてもいい、書かない、待たせない、分かりやすい）を実現する方針。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、当局にお伝えします</p>

<p>本年度導入予定は「かんたん窓口システム」「スマート申請システム」に向けて、利用者目線、事業者目線に立って、ITエンジニア（委嘱者）から助言をいただくとのことで、改革が進められているようです。</p> <p>当然のことながら、当市のDX改革に向けての「ビジョンと工程表」の基本方針がすみやかに公表されることを希望いたします。</p>	
<p>日程 11月12日（土）スカイホール4階において公約推進のためのまちづくり懇談会が開催され、出席いたしました。</p> <p>荒木恵司市長による10分野48項目の公約実現に向けての進捗や今後の取り組みについてが語られ、市の公約48項目のうち完了20実施中23検討中5残る項目はこれからの6ヶ月間で完了させ、最終的に100%を目指すとのことでありました。“ふるさと、を愛する市長の熱い思いが伝わる懇談会でありました。</p> <p>市民の立場から、気がかりになったことを中心に感想をいくつか記述します。</p> <p>1. 懇談会の進め方に関すること</p> <p>分野別・項目ごとに推進された内容が詳細に報告され、これもあれもやりましたとの説明を受けましたが、市民が望む納得に必要な客観的データがまったく示されなかったことです。又、説明が総花的・重要政策の絞りこみもなく、大きな“うねり”のようなものが感じられず残念でなりません。</p> <p>質疑応答の際に、司会者から数字に関する質問はさけるよう指示があり異様に、がく然としました。</p> <p>最近の説明会においては、判断基準をデータ（数字）をもって表示する事例が多いとのこと。</p> <p>KPI（重要業績評価指標）KGI（最終目標）を進捗管理に利用すれば、説得力が増し、わかりやすく市民を満足させる懇談会になったと思われます。</p> <p>2. 商店主の心の叫びがあった</p> <p>商店街にとっては「人口減少と地域内需の低下は最大の難題」との質問がありました。市長の対応内容（主旨）を記述すると「人口は減少していくものだ。2045年には67,000人になるという推計があるが、ダウンサイジングは止められない」</p> <p>商店街の人達に対し、あまりにも悲観的な答弁に驚きを感じました。がっかりして張り合いをなくしてしまわれなかと心配します。</p> <p>歴代市長は「人口減はいずれ止める。もう少し時間がほしい」とくり返し発言されていたことを記憶しております。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、当局にお伝えします。</p>

未来をゆだねられる市長の言葉には ダイナミックな打開策・夢を与えるビジョンがきわめて重要と考えます。

### 3. 優良企業の流出が続く桐生

当市の50年をふりかえると、好感度の高い雇用先である優良企業の流出の歴史がありました。

具体例で記すと、物流（輸送）企業群・都市銀行を含む金融証券会社・ハイテク企業（パチンコ器具製造業3社）大手製造メーカーと協力企業群・当地で歴史をはぐくんだ外食産業・スーパー業界・東京電力、NTT等公営企業の組織再編に伴う撤退・群馬大学理工学部の太田市への移転（一部）・地元農協経営破たんという悲劇・政治的思惑がからむ桐生競艇事業からの撤退など、多くのできごとが思い浮かびます。

その時時、賢人達による努力にもかかわらず、多くの貴重な経営資源が失われました。

最近、とどめを刺すようなニュースが駆けめぐりました。

当市にとって、経済基盤の生命線にひびいてくる桐生信用金庫が太田市に本部機能を移転させたとの報道です。

「人口減少や地元企業の衰退は信用金庫にとって、死活問題であり、競争に打ち勝って、従業員の生活と雇用を守る」という企業文化を理事長の移転事由から読みとることができました。

更に、両毛システムズ（株）が太田市吉沢町「おおた渡良瀬団地」の一角に新データセンターを稼働させる計画は、DX時代に向けての投資と思われます。

今さらながら、永年にわたる当市のかかげる政策・施策と企業文化とのミスマッチがもたらした結果であり、復元がきわめて、むずかしい状況に陥ってしまったように思えてなりません。

### 4. 結びとして

はばかりながら、従前を基本とした発想、仕組み、方法を変革し、戦略的思考、抜法、システムを導入、責任体制を明確にし、P・D・C・Aサイクルを回す、新しい自治体文化が求められていると考えます。

残された時間は少ない！！